

【特別展／企画展】

2024年10月21日(月)～12月14日(土)

2024年度特別展

「知のアトラスー宇宙をめぐる教会と科学の歴史」

【場所】西南学院大学博物館1階特別展示室・廊下

【テーマ展示／相互貸借特集展示(小規模展示)】

2024年8月25日(日)～12月中旬

2024年度サテライト展示Ⅱ

「丸山遊廓の遊女ー異国を見た女性たちー」

【場所】南島原市原城図書館(長崎県南島原市)

2024年9月25日(水)～1月26日(日)

2024年度相互貸借特集展示Ⅱ

「非西欧圏における祈りⅢ」

西南学院大学博物館フィリピンキリスト教美術コレクション」

【場所】國學院大學博物館(東京都渋谷区)

2024年12月中旬～4月予定

2024年度サテライト展示Ⅲ

「元寇防塁」(仮)

【場所】南島原市原城図書館(長崎県南島原市)

2025年1月28日(火)～4月予定

2025年度相互貸借特集展示Ⅲ

「ジュダイカから見る聖書植物ー安息日と仮庵祭ー」(仮)

【場所】國學院大學博物館(東京都渋谷区)

【休館】

毎週日曜日 休館

2024年10月7日(月)臨時休館

2024年10月17日(木)～19日(土)臨時休館

2024年12月25日(水)休館(キリスト降誕祭)

2024年12月28日(土)～2025年1月5日(日)冬季休館

行事予定は日程、内容等が変更する場合がございます。

各イベントの詳細につきましては博物館ホームページをご確認ください。



〒814-8511 福岡市早良区西新3丁目13番1号  
TEL 092-823-4785 FAX 092-823-4786(博物館事務室)  
URL <http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/>

【開館時間のご案内】

開館時間／10:00～18:00(入館は17:30まで)

休館日／毎週日曜日、夏季休暇[8/10～8/16]、

キリスト降誕祭[12/25]、年末・年始[12/28～1/5]、

そのほか臨時休館あり

入館料／無料



Youtube 西南学院大学博物館



@seinan\_museum



@seinan\_museum

来館者掲示板

来館者の言葉

西南大の卒業生ですが、卒業以来、初めて来ました。ドージャー先生の机やピアノが見られて感動しました。講堂が見られなかったのは残念でした。それでも、写本など古くて貴重なものを見ることができて、来てよかったと思いました。また興味がわく企画展があれば訪れたいと思います。ありがとうございました。(2024年5月)

初めて来ましたが、落ちついていてよかった。大学の建物の歴史やキリスト教の印刷物の展示もよかった。今まで来なかったのが残念。(2024年6月)

聖書に使われている羊皮紙を初めて触ることができて面白かった。ザビエルの載った巻物やガラス製品のものなど初めて見たものが多くて、新鮮でとても楽しかった。(2024年8月)



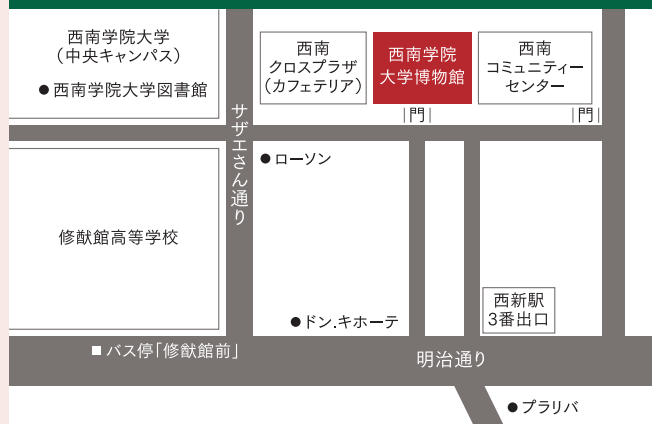
福岡県内だけでなく、県外・海外からもたくさんの方にご来館いただき、大変うれしく思います。現在、2階と3階の講堂は整備中のため、一般の方には立ち入りをご遠慮いただいております。博物館の歴史や雰囲気とともに、展示を楽しんでいただけると幸いです。10月21日(月)からは、特別展「知のアトラスー宇宙をめぐる教会と科学の歴史」を開催いたします。皆様のご来館を心よりお待ちしております。

学芸調査員 前田 桃花

編集後記

今年の2月から学芸調査員として勤務しています、馬場と申します。学芸調査員は、温湿度管理や展覧会の運営補助、刊行物の執筆作業など業務が幅広く、大変な時もありますが、それと同時にやりがいも感じています。学芸員の先生や研究員の先輩にご指導いただきながら、実践的に学べる環境に感謝しつつ、日々励んでおります。未熟者ではございますが、精一杯頑張っておりますので、皆様どうぞ宜しくお願い致します。学芸調査員 馬場 紀聡

アクセスマップ



福岡空港 → 西新駅下車…約17分  
天神 → 西新駅下車…約8分  
博多駅 → 西新駅下車…約12分  
※地下鉄西新駅([3]番出口)から徒歩3分



博多駅バスセンター → 修猷館前…約35分  
天神 → 修猷館前…約20分  
※修猷館前バス停から徒歩5分



福岡空港(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学…約25分  
博多駅(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学…約20分  
天神(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学…約15分  
※駐車場はございません。近隣の有料駐車場をご利用ください。

西南学院大学博物館

NEWS

SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

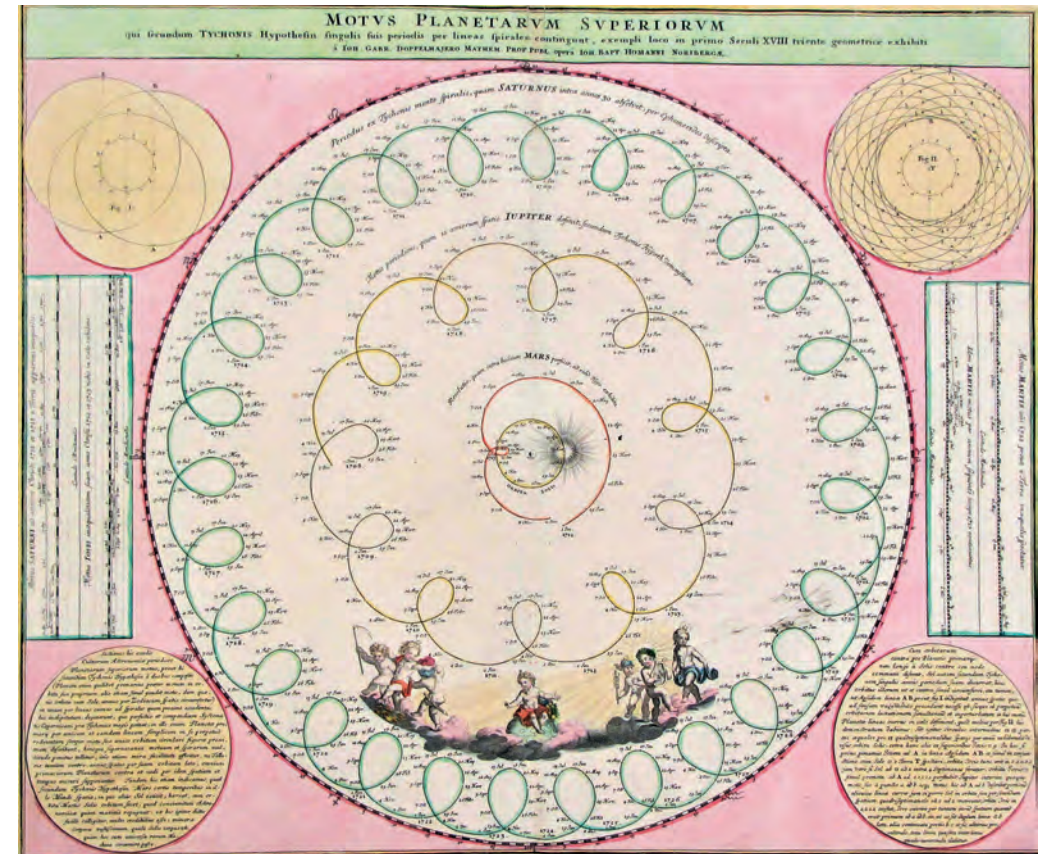


特別展

2024年度西南学院大学博物館特別展

「知のアトラスー宇宙をめぐる教会と科学の歴史」

会期:2024年10月21日(月)～12月14日(土)／会場:西南学院大学博物館1階特別展示室・廊下



ヨハン・ガブリエル・ドッペルマイヤー、ヨハン・バプティスト・ホーマン 「ティコ・ブラーエの仮説による外惑星軌道予測図」(『百図地図帳』より) 1712年頃/ニュルンベルク/銅板に手彩色/69.0×75.3cm/西南学院大学博物館蔵

CONTENTS

■特別展

「知のアトラスー宇宙をめぐる教会と科学の歴史」

■新収蔵品紹介

『天経或問』

■常設作品紹介

《全能者キリスト》

■大学博物館のお仕事Ⅶ

「資料の調査研究」

展覧会の見どころ紹介

今年度の特別展は、当館の展示にはあまりない、天文学や医学に関する資料の展示です。宇宙の中心は太陽であり、地球がその周りを回っていると証明したのが地動説でした。教会は地動説学者の本を禁書にし、宗教裁判を行ったことから、キリスト教と科学は対立するものとしてイメージされています。果たして本当にキリスト教と科学は相いれないものだったのでしょうか?本展ではその歴史を紹介します。

学芸調査員 栗田りな



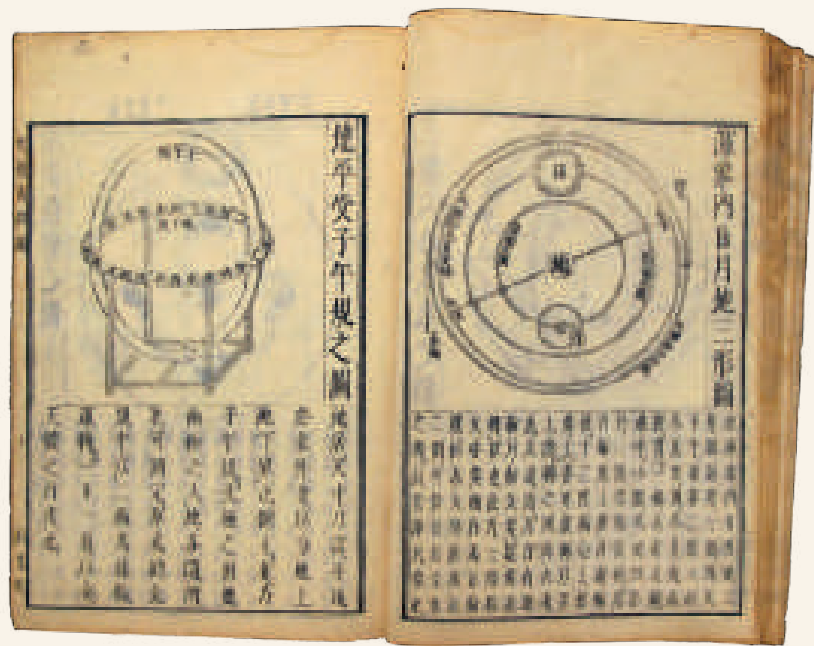
## 新収蔵品紹介

New

游子六『天経或問』は、1675(日本:延宝3/清:康熙14)年頃に成立した、西洋天文学に基づく天文学全般を扱った本です。日本へは、1720(享保5)年の禁書令緩和によって輸入され、天文学者・西川正休(1693~1756)が訓点を施したものが1730(享保15)年に刊行されました。平易な天文学入門書としてベストセラーとなり、幕末まで多くの注釈書が刊行されました。正休は幕府にその業績を認められ、暦術測量御用のうち天文方に任ぜられました。禁教時代にも、イエズス会宣教師たちがもたらした西洋天文学の知識が、中国を経由して日本まで持ち込まれていたことがわかります。

本書で取り上げられている西洋の宇宙観のなかでも、「地球球体説」は特に議論を招きました。「須弥山説」という仏教の宇宙論(天動地平説)と相反するものであったためです。仏僧により反論や批判が絶えず、幕末には「梵曆運動」とよばれる思想運動にまで発展しました。

学芸研究員 鬼束 芽依



『天経或問』

tenkei wakumon

1730(享保15)年/日本/游子六 輯、西川正休 訓点/紙本木版、縦帳/25.1×17.8cm

## 大学博物館のお仕事

VII

### 資料の調査研究

今回は、博物館の主な活動の一つである資料の調査研究についてお話しします。

一般的な博物館は、設置主体の運営方針などにに基づき資料を収集・保存しますが、大学博物館は、大学での学術研究のための資料を収集・保存しています。当館の場合、キリスト教主義教育にかかせない聖書写本や、大学教員が蒐集した資料がコレクションの柱となっています。

当館の収集方針に従い、購入・寄託・寄贈された資料は、学芸員を中心としたスタッフにより、調査研究がなされます。例えば、聖書写本の場合、ラテン語等で記述された内容の読解を行い、装飾手法や様式の分析などからその写本が制作された背景などを探ります。江戸時代の文書であれば、くずし字を読解し、人々の生活や政治・学問・事件などの事象を調査します。そして、その成果は、展示会の図録や研究紀要などの刊行物を通して、広く公表されます。

資料の調査・研究は、より質の高い展示の実施や教育普及活動を可能にしています。

学芸調査員 馬場 紀聡



## 常設展示紹介

本資料は東方正教会のイコン(聖像画)です。イコンは単なる聖堂の装飾ではなく、家庭用や携帯用のものもあり、祈りを捧げる道具です。その祈りは、絵ではなく描かれた聖人の原像へと捧げられます。その意味でイコンは信仰の媒介として機能するものです。

本資料には全能者キリスト(ハリストス)が描かれ、左手には福音経を、右手では祝福を与えています。頭を囲む光輪には十字架が見え、その中には「O ω N (=存在するもの)」の三文字が、また上部左右にはイエス・キリストのギリシャ語読みである「イイス・ハリスト」の略字、「IC XC」の神聖四文字が刻まれています。

キリストの両横には二人の天使が描かれており、その内の一人は受難を想起させる十字架を抱えています。しかしキリストの表情はどこか力強く、厳かな表情を浮かべています。

鞭打ちや磔(はりつけ)にあい、受難を受け人間としての苦悶の表情に満ちたイエスとは異なり、ここでは「メシア」(=救世主)として神性を表すキリストが描かれているのです。

学芸調査員 庄崎 詩香



《全能者キリスト》

Christ Pantocrator

ギリシア/21世紀/木製、着色/19.0×15.0cm

## [ 博物館通信 ] 2023年12月から2024年9月にかけて行われた博物館活動の中からいくつかをご紹介します。

4月から6月にかけて開催した企画展「研究室訪問シリーズⅤ『描かれた朝鮮通信使』」では、多くの方々が来館し日韓交流史に興味を示されたことを喜ばしく思います。ワークショップ「テラコッタねんどではにわづくり」では沢山の応募が集まり、実行側として身の引き締まる思いがしました。10月からは、特別展「知のアトラスー宇宙をめぐる教会と科学の歴史」を開催します。スタッフ一同皆様のご来館を心よりお待ちしております。

学芸調査員 村田 早紀

- 2023年12月20日(水)~2024年4月4日(木) テーマ展示「楽譜とことば一祈りの歌のカケラたち」を開催しました。
- 2023年12月23日(土) せいなんワークショップ「ネウマで歌ってみよう!」を実施しました。
- 2024年3月9日(土) 「スプリングコンサート」を実施しました。
- 2024年3月23日(土) せいなんワークショップ「聖書植物でしおりづくり」を実施しました。
- 2024年4月8日(月)~6月26日(水) 企画展Ⅰ 研究室訪問シリーズⅤ『描かれた朝鮮通信使』を開催しました。
- 2024年4月26日(金)~8月23日(金) 西南学院大学博物館×南島原市サテライト展示Ⅰ「博多の伝統工芸とキリスト教」を開催しました。
- 2024年5月11日(土) せいなんワークショップ「くずし字でキーホルダーをつくろう!」を実施しました。
- 2024年5月14日(火)~9月23日(月・祝) 西南学院大学博物館×國學院大学博物館相互貸借特集展示Ⅰ「非西欧圏の祈りⅡ 西南学院大学博物館エキスポコレクション」を開催しました。
- 2024年8月6日(火) せいなんワークショップ「テラコッタねんどではにわづくり」を実施しました。
- 2024年8月23日(金)~10月5日(土) 企画展Ⅱ「創られたキリスト像ー排耶書・実録・虚構系資料ー」を開催中です。

